

審判団の打ち合わせ事項

☆はじめに

▼主審、第1・第2副審、4審の名前を確認。競技規則、競技時間、同点引き分けの際の処置（延長・PK方式）、交代選手数、登録選手の確認、ユニフォームの色、テクニカルエリア、飲水タイムの有無など大会規定を確認する。主審が突然のケガ・病気で役割を果たせなくなった場合、主審となるのは4審かA1か決めておく。

▼副審にはゴールの監視、オフサイド、ラインアウト、反則などあらゆることに援助を依頼。主審と副審はひんぱんにアイコンタクトを行う。

▼第一試合の審判団は、打ち合わせの前にフィールドのチェックを行い、不備があれば直す。使用ボールと予備も事前に検査する。

▼主審は、予定時間に試合を開始できるよう、ベンチや選手をコントロール。2分以上遅れた場合は、審判報告書にその理由を書かなければならない。

☆ゴール

▼ゴール時の判定＝副審は主審とアイコンタクトした後、うなずいて旗は下げたまま、ハーフウェイラインの方向に10～20mダッシュで戻る。ゴール直前にファールがあるのを副審が見てゴールを認めたくない場合、直立の姿勢のまま動かない。主審はアウトオブプレー後、副審にわけを聞きに駆け寄る。

▼ボールがポストやバーに当たった後やDFやGKがクリアする直前に、完全にボールがゴールラインを越えたことを主審が見ず、副審が認めた場合、旗でセンタースポットを指す。主審がボールの行方を追い副審に背中を向け、その旗を見なかった場合、旗を上げてばたばた振る。ゴールの時に旗で合図をするのはこの時のみ。

▼得点の記録は主審とゴールした側から遠いサイドの副審が同時に行い、その間近いサイドの副審は選手の動きを監視、主審の記録が終わってから記録する。

☆PK

▼明らかにPKになる反則を副審が確認したが、主審がとらない場合は、シークレットサイン（ワッペンをさわるなど打ち合わせで決めておく）を出す。PKの判断はすべて主審が行う。

▼PKの時は、副審は主審の背後にいる選手の動きとキックされる前のGKの前方飛び出し、ゴールラインを割ったかどうかを監視。違反があった場合、旗で合図せず主審を呼ぶ。

▼同点でPK戦になった場合、A1がゴールラインを監視、A2がセンターサークルで選手を見ることとする。

☆オフサイド

▼副審は、オフサイドの監視時、常にラインの前後1m以内をキープ。パスが出る瞬間の位置を主審、副審双方で監視。短い距離の場合、攻撃側のパスが出た瞬間の受け手の位置をしっかりと把握。最後に誰がプレーしたかを主審、副審が共同で見極める。

▼オフサイドで旗を上げたが、主審が採用しない場合は、主審が降ろせの合図を出す。主

審が旗に気づかない場合は、攻撃が続いているなら上げ続ける。守備側にボールが移ったら、旗を降ろしオフサイドラインに戻る。ギリギリだがオフサイドでない場合、主審が見た場合のみ、腕を伸ばして下から前方にピッと上げる。見ない時は合図しない。

☆ファール

▼副審サイドのプレーで反則があった場合、積極的に旗を上げてもらう。主審から見えにくい位置での反則で、副審から明確に見えたものは旗を上げる。それを見てから鳴った笛には旗で方向を示し、間接FKなら旗を持っていない腕を真上に上げる。

▼ゴールに近い地点でのFKでも副審がオフサイドラインを監視、主審は壁からの飛び出しや壁の中での反則を監視する。

☆ラインアウト、その他

▼ロングシュートで得点が入ったりゴールラインを割る時はいつでも、遅れてもしっかりゴールライン（コーナフラッグの位置）まで走りこんでから合図。途中で合図しない。

▼スローインの監視の分担。副審サイドでは、副審が足元のラインからの距離と位置（踏み越し、遠くからの投げ）を見て、主審は手を見る。主審サイドでは主審が全体を見る。

▼タッチライン、ゴールラインからボールが出た時に副審が、どちらが最後に触れたか確信が持てない場合、旗を真っ直ぐ上げたまま主審を見る。その後、主審が指した方向に旗を合わせる。主審と食い違った場合は、主審に合わせる。ワンタッチして出た場合、旗を持たない方の手であらかじめ決めた方法で合図をする。

▼負傷者がフィールドから出る時には、副審が選手に、「主審に声をかけてから出るように」、また、「入る時に主審に声をかけて許可をもらってから入るように」と指示する。出血時は主審が止血を確認するが、遠い場合は副審か4審が行い主審の了承を求める。

☆4審

▼予備のボールの管理を依頼。選手交代の時は4審が用具のチェック後、大声で呼び副審双方が旗で合図。4審がない場合はA1が用具のチェックなど役割を行う。

▼4審はベンチのコントロールのため両チームを監視。いない場合はA1がその役割を担う。ベンチが4審の警告を無視する場合は、主審に連絡する。

▼負傷者が出た場合、チーム関係者をフィールド内に何人入るのを許可するか、主審が指で指示。入れない場合は副審や4審が両腕を広げて制止する。ただし、子供の場合、早急にゲームを止め、手当てを受けさせる。ゲーム再開のため、どちらのチームがボールを支配していたかをあらかじめ確認しておき、そちら側に有利なドロップボールを行う。

▼得点、警告、退場、交代など必要なものは4審にも記録してもらう。ただし、主審が記録中はフィールドの内外を監視し、主審が記録を終えてから自分のカードに記録。

▼前・後半の終了時間（ジャストか1分前か決めておく）がきたら、4審に立ってもらう。ロスタイムがあるときは副審、4審にはっきりわかるように合図する。例：1分から1分59秒は「1」の合図。それを受け、4審は両ベンチにロスタイムを告げる。

（鷲@初石監督 05年5月）